

コウノトリ「げんきくん物語 episode(エピソード)3」

生物多様性研究分科会 北村 清

1. はじめに

当研究分科会では、2016(平成 28)年 11 月に日本で初めてコウノトリの野生復帰が行われた兵庫県豊岡市へ視察に行き、兵庫県立コウノトリの郷公園、餌場となっている田結(たい)湿地及び戸島湿地の関係者と意見交換会を行った。当時はまだ豊岡市周辺でしか営巣が確認されておらず、島根県内でコウノトリが営巣するとは、想像もしていなかった。しかし、翌年 4 月 2 日、雲南市にコウノトリが営巣したとの情報を聞き、当研究分科会のメンバー 3 名(大嶋、田中、北村)で視察に行ったのが、雲南市での活動の始まりである。

雲南市に営巣した「げんきくん」は、日本にいるコウノトリの中でも特にドラマチックな人生を送っており、兵庫県立コウノトリの郷公園元園長である山岸哲氏が 2018(平成 30)年に雲南市で初めての雛が誕生するまでを綴った「げんきくん物語」(講談社青い文庫)を出版されている。(写真-1)

これにちなんで 2020(令和 2)年度の研究報告では、「げんきくん物語 episode2」として雲南市立西小学校の人工巣塔で営巣した「げんきくん」とその家族について雲南市での暮らしを報告した。

本投稿では、spisode3 として現在の「げんきくん」とその家族について報告する。



写真-1

「げんきくん物語」表紙

2. 「げんきくん」の生い立ちと生物多様性研究分科会の活動状況

「げんきくん」が雲南市にやって来たのは、2016(平成 28)年 11 月である。その後、前妻「ななちゃん」の死、西小学校の人工巣塔での産卵、8 年連続雛の誕生など数多くのドラマが展開されてきた。その間、当研究分科会では、「コウノトリはなぜ雲南市を選んだのか？」をテーマに餌生物量調査や休耕田を利用したビオトープ調査等を行ってきた。表-1 に「げんきくん」と当研究分科会の活動を時系列にとりまとめた。

表-1 「げんきくん」と生物多様性研究分科会活動年表(1/2)

年	「げんきくん」の生い立ち	研究分科会活動内容
2014	・ 福井県越前市の繁殖施設で孵化(6/14)	
2015	・ 繁殖施設より放鳥(10/2)全国各地を移動 宮城県美里町滞在(10/10～12/8) 長崎県五島滞在(12/23～2/7)	
2016	朝鮮半島滞在(2/8～8/29) 宮城県美里町滞在(9/4～10/25) 雲南市へ移動(11/12～) 雲南市で定住	・ コウノトリの郷公園視察

表-1 「げんきくん」と生物多様性研究分科会活動年表(2/2)

年	「げんきくん」の生い立ち	研究分科会活動内容
2017	・豊岡市へ嫁さがし(2/19 ななちゃん) ・雲南市春殖地区で「ななちゃん」産卵(3/23 頃) ・4羽の雛誕生(4/25) 春希(はるき)・うらくん・<u>姫ちゃん</u>・<u>げんちゃん</u> ・「ななちゃん」誤射により死亡(5/20) ・7/4 雛を収容、豊岡で飼育、7/12 雲南市で放鳥	・机上調査(コウノトリはなぜ雲南市を選んだのか)
2018	・ポンスニと夫婦となり4羽の雛誕生(4/13) はるか・らいむ・<u>永遠(とわ)</u>・<u>きらら</u> ・4羽の巣立ち(6/18～6/24)	・春殖地区振興協議会ヒアリング(4/1) ・餌生物量調査(7/16,10/28)
2019	・西小学校校庭に設置された人工巣塔で産卵／4羽の雛誕生(4/8) れいな・ほのか・<u>いぶき</u>・<u>あおば</u> ・4羽の巣立ち(6/13～6/18)	・餌生物量調査 ・よけじの役割調査報告
2020	・4羽の雛誕生(4/18) ゆい・みくも・<u>命(みこと)</u>・<u>にしき</u> ・4羽の巣立ち(6/23～6/27)	・餌生物量調査(10/10) ・簡易生物調査(10/11)
2021	・4羽の雛誕生(4/14) 瑞花(ずいか)・栞愛(かなな)・<u>はなび</u>・<u>西楽(せいら)</u> ・4羽の巣立ち(6/19～6/26) ・初孫誕生(福井県小浜市)	・春殖地区・出西地区意見交換会(9/23) ・ビオトープ調査(10/9)
2022	・4羽の雛誕生(4/13) <u>四輝(しき)</u>・<u>志(ふみ)</u>・八雲(やくも)・飛貴(ひだか) ・4羽の巣立ち(6/18～6/25)	・ビオトープ調査(10/10) ・ビオトープ補足調査(10/29)
2023	・3羽の雛誕生(4/12) 美羽(みう)・<u>ホープ</u>・<u>叶彩(のあ)</u> ・3羽の巣立ち	・豊岡市の視察&意見交換会(10/20,10/21)
2024	・3羽の雛誕生(4/7) かなえ・<u>希来(きら)</u>・<u>幸雲(こううん)</u> ・初ひ孫誕生(福井県越前市)	・大月谷ビオトープ事業補助

※誕生月日は1羽目の孵化日

※下線は西小学校の児童が命名

3. 「げんきくん」の家族

現在、日本で生息しているほとんどのコウノトリには、巣立ち前に足環が取り付けられ、個体の識別を行うことができる。また、コウノトリ市民科学（日本コウノトリの会・東京大学・中央大学協働プロジェクト）において、市民参加によるコウノトリのモニタリングが行われており、各個体の居場所がおおよそ判るようになっている。「げんきくん」は、表-1 および図-3 に示すとおり現在 8 年連続雲南市で繁殖を成功させており、子どもは 30 羽、孫が 33 羽、ひ孫が 4 羽の大家族となっている。

「げんきくん」の子どもたち 30 羽のうち、コウノトリ市民科学の目撃情報の記録がある 26 羽について、巣立ち後の行動パターンを整理した。子どもたちは、巣立ち後 1～2 ヶ月間は雲南市で暮らしているが、その後は他県に複数羽あるいは単独で移動している。図-1 は雲南市から旅立って初めて目撃された県別のグラフである。このグラフと目撃情報から、雲南市で巣立ちしたコウノトリは、日本海沿岸を北上し兵庫県北部(豊岡市周辺)から更に北上するもの、南下して兵庫県南部や徳島県に移動すると考えられる。なお、雲南市から直接、西方面(山口、九州)に移動したコウノトリはいないようである。

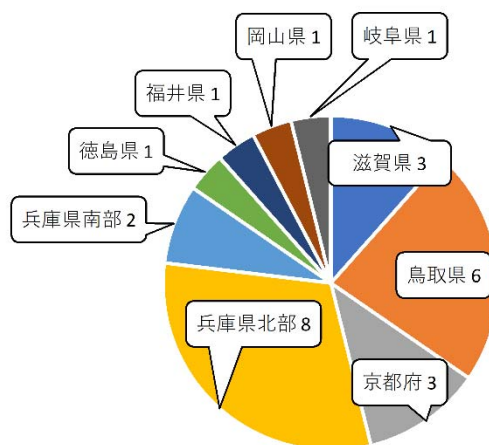


図-1 巣立ち後初めて
目撃された県別グラフ

2024. 11. 25 現在、最新の目撃情報（コウノトリ市民科学）を整理すると、子どもたちは図-2 に示すとおり東は千葉県香取市、南は沖縄県宮古島市まで移動している。また、子どもたちの約半数（33 羽）が、兵庫県南部（東播磨地方）に集まって

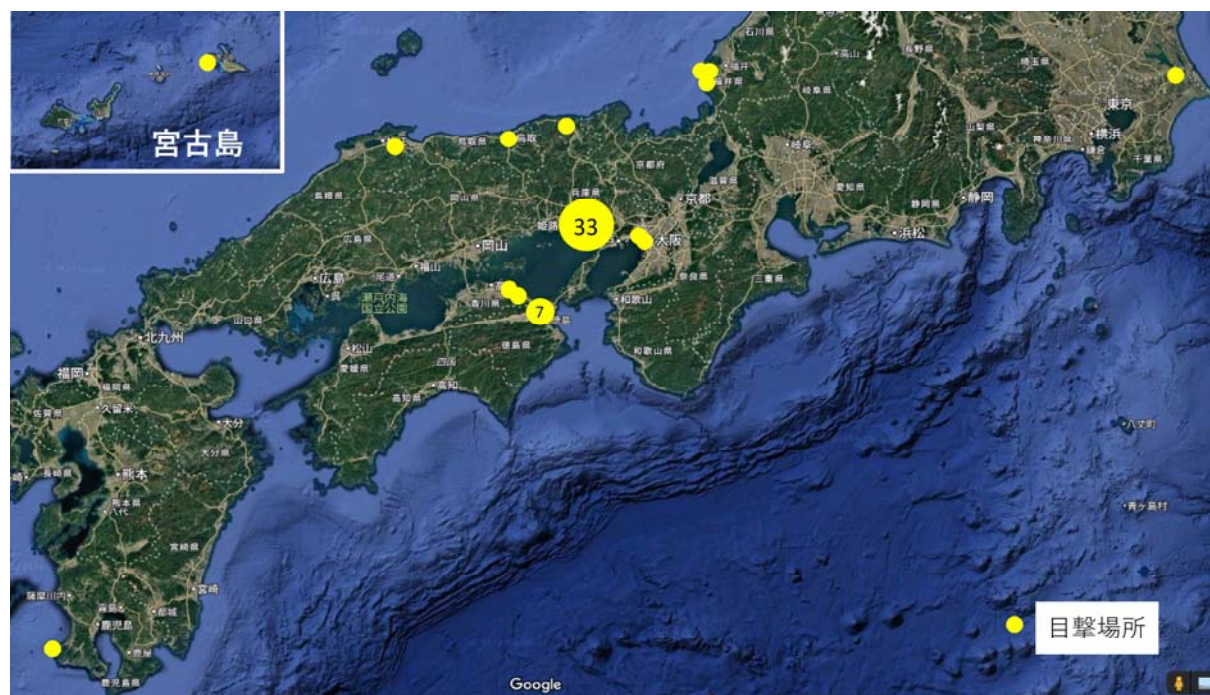


図-2 子どもたちの最新目撃情報（2024. 11. 25 現在）

いる。東播磨地方では、近年 9～11 月ごろに全国から若いコウノトリが、かいぼりで魚等の餌が捕り易くなったため池に集まるようになっている。図-4 は、令和 5 年度東播磨地方に飛来したコウノトリの数を示す。

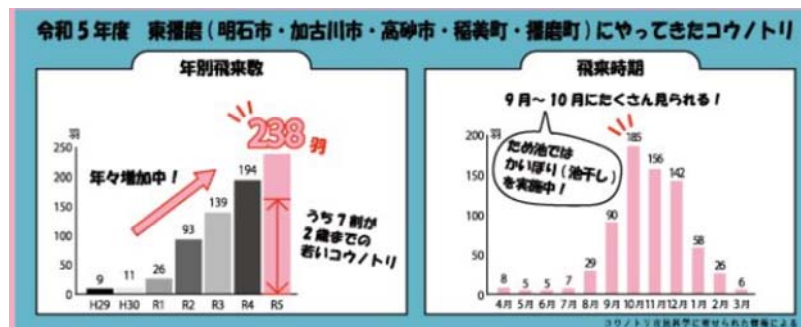


図-4 東播磨地方に飛来するコウノトリ

(いなみ野ため池ミュージアム HP)

かいぼりとは、池や沼の水をくみ出して泥をさらい、魚などの生物を獲り、天日に干すことである。東播磨地方には数多くの農業用ため池があり、伝統的な管理手法として稲作が終わる秋に行われてきた。これまで、多くのコウノトリは豊岡周辺で暮らしていたが、生息数の増加やコウノトリの郷公園内で行われていた餌付けの廃止に伴い東播磨地方に多くのコウノトリが集まるようになったと考えられる。島根県にも多くのため池があることからため池を整備して、コウノトリやトキの餌場としての利用も考えられるのではないかな。

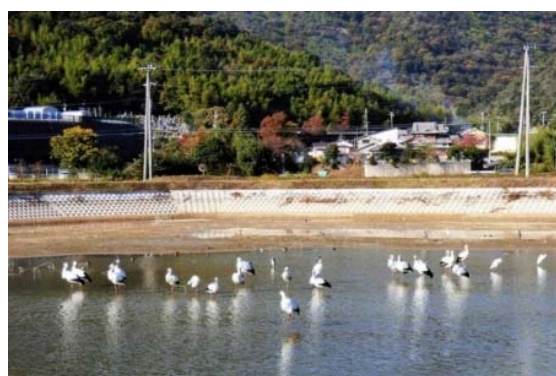


写真-2 加古川市志方町原、皿池に集まるコウノトリ (神戸新聞より)

4. 最遠地で暮らす「みこと」

2020(令和 2)年に誕生した「みこと ♀」は、同年 12 月ごろから今日まで、直線距離で約 1500km 離れた沖縄県宮古島市伊良部島で暮らしている。同じ年齢の兵庫県朝来市生まれの「清流 ♂」と一緒に伊良部島に渡り、丸 4 年が経過しているが、未だに雛の誕生の情報はない。コウノトリとしては珍しく、佐和田の浜の干潟を餌場としているとのことである。



写真-3 干潟で餌を探す「みこと」と「清流」(コウノトリ市民科学より)

5. 雲南市立西小学校の活動

雲南市立西小学校は、「げんきくん」が初めて電柱に営巣した場所から約 600m しか離れておらず、最初に雛が誕生した 2017 (平成 29) 年から「げんきくんとひなたたち応援プロジェクト」を立ち上げて全校あげてコウノトリへの支援が行われている。

具体的には、学校周辺での目撃情報を貼り付けたコウノトリ見守りボードの作成や周辺の田んぼでのいきもの観察などコウノトリを題材にした環境教育が行われている。一般的にコウノトリは毎年同じ場所で営巣するが、一人一枝運動など、子どもたちの願いが通じたのか2019（平成31）年からは校庭に設けられた人工巣塔で営巣し、校舎内から「げんきくん」の子育ての様子を間近かで観察でき、西小学校のホームページでその様子が公開されている。

「応援プロジェクト」は、すでに8年も継続されており、当時の小学1年生は中学生となっている。このように長期間、校庭にコウノトリが棲みつき身近に観察できる環境は全国唯一である。



写真-4 西小学校の巣塔と
「げんきくん」と「ponsuni」

6. まとめ

飼育されているコウノトリの寿命は、25～30歳と言われている。「げんきくん」は現在10歳なので、事故等が無ければ後10年ぐらいは雲南市で棲み続けることとなる。このペースで行けば、「げんきくん」の家族は120羽以上となる見込みである。また、今年は西小学校の巣塔から2kmほど離れた雲南市大東地域交流センター敷地内の巣塔に鳥取県気高町生まれのメスと豊岡市生まれのオスの間に3羽の雛が誕生した。2羽の愛称は、大東小学校の児童により「のの」「ひまわり」と名付けられ、もう1羽は市民の公募の中から「おおぎ」と名付けられた。雲南市では、これまでコウノトリによる自然環境保全や地域活性化等のさまざまな活動に取り組まれている。当研究分科会では、今後とも「げんきくん」の追っかけを行い、雲南市に貢献できる企画を行っていききたい。

《参考文献》

- ※1 山岸 哲(2018)：げんきくん物語／講談社
- ※2 兵庫県立コウノトリの郷公園：<http://satokouen.jp>
- ※3 足環カタログ（2024年1月31日現在）：兵庫県コウノトリの郷公園
- ※4 コウノトリ市民科学：<https://stork.diasjp.net/>
- ※5 雲南市立西小学校：<https://shimane-school.net/unnan/nishi-sho/>
- ※6 いなみ野ため池ミュージアム
：<https://www.inamino-tameike-museum.com>
- ※7 コウノトリ「げんきくん」とその家族～大東町でのコウノトリの暮らし～
：令和2年度 研究報告／島根県技術士会